

江戸川柳について

現代川柳は比較的ストレート/江戸川柳は何のことかちょっと考えるものが多い。江戸時代の風俗背景と関係ない歴史もの文学ものの川柳を挙げてみました

(歴史もの)

屋根葺きも井戸掘りもした帝（みかど）さま
釣れますかなどと文王そばにより
十人の上は大目に御覧なり
年号の初め鎌にて鹿を切り
よいしめりなどと時平初手は言ひ
衣川てきと味方で一首出来
まさかりとどてら一つで抱へられ
叡山で碁盤をながめるふてえやつ
義朝は湯灌を先へしてしまひ
清盛は仏のために迷はされ
入道は真水をのんで先へ死に
そのあした橋のらんかんきずだらけ
木曾山は朝日粟津は夕日なり
伊豆の海よりまだ深い池の恩
五条ではぶたれ安宅でぶちのめし
佐野の馬戸塚の坂で二度ころび
三郎は筆で毛虫をはらひのけ
高のりは書き損なうと又削り
風上に居て楠は采を振り
ずぶ濡れに成って帰ると歌書を買ひ
実のならぬ花で実のある返事なり
桔梗より盛りの長いさるすべり
さる人の系図をきけば草履取
御利運なはず原までが御味方

(文学史)

真っ白な名歌を赤い人が詠み
茶ののめる庵は都の辰巳也
気強いと気の長いのが九十九夜
雪の謎とけて御簾(ぎょれん)を巻揚る
石山でできた書物のやわらかさ
九十九はえらみ一首はかんがへる
定まった家のあるのに山で書き
音のした池へ翁の影うつり
芭蕉翁ぼちゃんという立留り
翌年は千代井戸端をよけて植え